

お花畑のような多士済々の社員育み テレビとネットの共存図る

「お花畑のように多様な人材の花を咲かせたい」。東海テレビの新しい社長となった小島浩資さんは就任に当たり、組織のありようについてそんな言葉を紡いだ。ネットに押され厳しい経営環境のテレビ業界。ネットとの共存を図る戦略はまずは社員の意識改革とみた。

(聞き手は、塚本隆・中部財界フォーラム社社長)

小島 浩資 (こじま ひろし) 1958年12月生まれ。愛知県出身。名古屋工業大学卒。1981年東海テレビ放送入社。営業畑を専門に歩み、取締役、常務を経て2017年専務取締役、今年6月に社長就任。



——社長就任おめでとうございます。就任の
抱負から聞かせてください。

小島 テレビを取り巻く環境は激変しています。さまざまな課題を先送りにできないという意味も含めて緊張しています。この地域で放送免許をいただいている局ですから、地元重視、地元密着という従来の方針を継承していくのは当然で、その結果として積み上げられてきた地域からの信頼、信用をさらに深めていく。その姿勢が番組制作などの軸足になって行くと思っています。また、漫然とやってきたことは、勇気を持って見直していくことも大事だと思っています。

——ずっと営業畑を歩いてこられたのです
ね。

小島 そうです。営業の立場から番組の企画

なり編成なりを見てきました。そういう意味で視聴者目線で見えてきたということもありますが、番組を売る立場としてほとんどの自社制作番組を見てきたわけですね。しかしだからと言って、社長として現場に対して細かいことを言うのはやりたくないと思っています。

——東海テレビの現状について、
どういう認識をされていますか。

小島 視聴率は、一日全体でみると、2位をキープしています。「スイッチ!」「ぐっさん家」「スタイルプラス」といった自社制作番組が頑張ってくれていて、まさに地元の皆様のおかげで好調を維持できています。2位からトップを狙うには、夕方のニュースゾーンの強化を考えています。先ほど言いました、厳しい現状と言うのは、テレビ広告がインターネットにとって

替わられつつあるということも一つなのですが、スマホ時代にあって、ネットと切り離してテレビが生き残れるとは考えておりません。ネットとの共存、ネットの良さを採りこんでいくということ、もっと勉強して行かねばならない。

——例えば、広告面での共存とは。

小島 ネットのターゲット広告では、一度ある商品を購入したり検索をしたら何度でも同じような広告を送りつけられるというようなことが起きていますね。一方、テレビはターゲットを決めての広告はできないのですが、たまたまその広告を見た人にもアピールできる。この両方の特性をセットにして上手に生かせることができないか、といったことを考えようとしています。若い社員にウェブ解析士(*注)の資格を取るよう会社としてバックアップする態勢もつくり、そうした人材から新しい発想も生まれてくると期待しています。

——人材とえば、いま盛んに言われている
「働き方改革」についてはいかがですか。

小島 「時間外」を少なくするということが全社挙げて取り組んでいます。全体的な業務の見直しですね。一方で、いかに楽しく前向きになれるかということが大切だと思います。働き方と言うことで言えば、私は明るく、夢と目標を持ってくれと言うことを社員には言っております。テレビは厳しい状況にはあるんですが、明るくしていないと人は集まってくれないし、人が集まればいろんなアイデアが出てくる。そういう組織・社員の在り方として「お花畑」という言葉で表現しています。上司や先輩やいろんな指導はあるけど、自分なりに受けとめて、自分のなかで軸足をもってやってほしい。そうすれば、東海テレビはなんと面白い人材がいっぱいいるじゃないかなとなる。白一色、黄色一色の花壇ではなくさまざまな花が集まるお花畑のようにいろんな花が咲いてほしい。私もまたそのお花畑の一員としているんな話を聴ける社長になろうと思っています。

——なかなか含蓄に富んだお話ですね。と
ころで日常生活で大切にされている信条は。



小島 しいて言えば、夜寝る前に一日を振り返るようにしていることぐらいですかね。もう若い時からですが、一日に一人は新しい人を知る、あるいは新しいことを知る、といったことを自分の目標にしてきました。なんであんなことを言ってしまったのかといった反省も多いのですが(笑)。

——座右の銘は。

小島 座右の銘と言うより、あこがれている言葉があるんです。インドの政治指導者であるマハトマ・ガンジーの「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ」という名言があります。今を大事に生きよう、勉強しよう、テンションを高める言葉ですね。

——最後に、ご趣味を教えてください。

小島 ジャズ・サックスの音が好きだったのです。ケニー・Gとかデイヴィッド・サンボーンといった奏者が好きで。それで還暦前に急に趣味を持とうと遅まきながら楽譜も読めないのにサックスに挑戦し始めたのです。実際はなかなかレッスンに行けないので上達しないのですが、いつの間にか「社長の趣味はサックス」と周囲に広がってしまって困っています(笑)。

*注 ウェブ解析士 一般財団法人ウェブ解析士協会が認定する資格。ネットだけでなくさまざまな手段で消費者等から集められたデータを解析し、事業者の抱える課題を見つけ、改善策を立案、成果をもたらすといった一連のコンサルティングを行える人材をいう。